

## あらまし

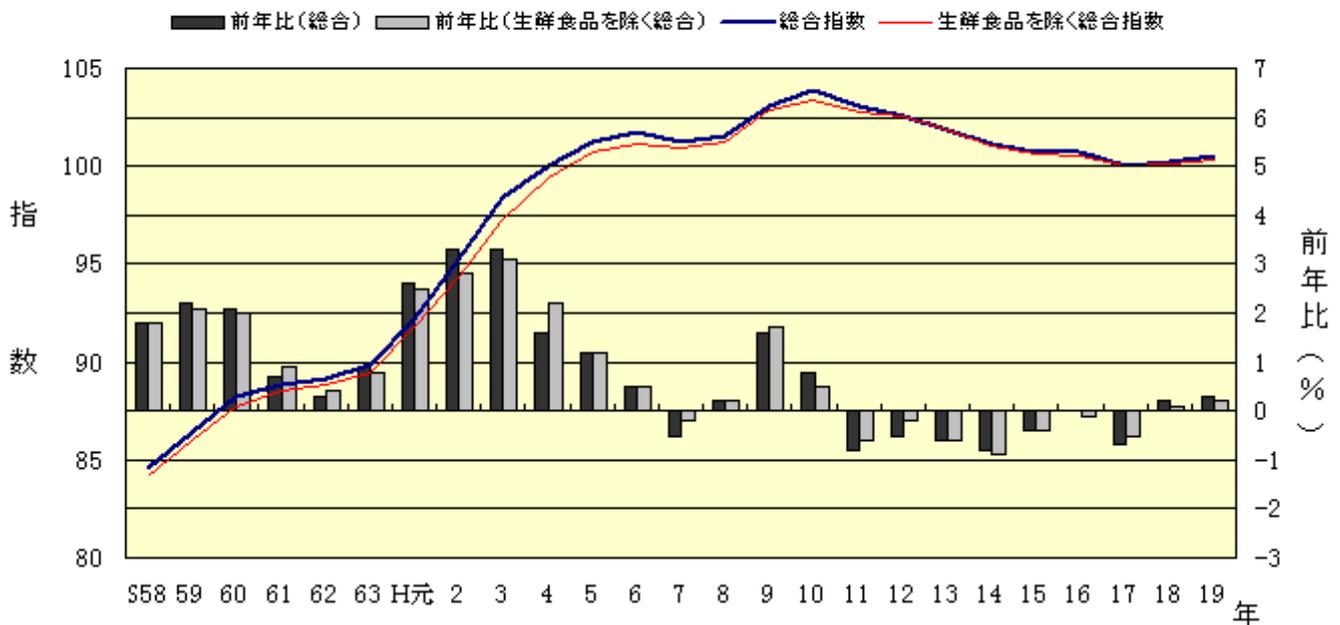
平成 19 年平均の名古屋市消費者物価指数(確報値)は、平成 17 年を 100 とした**総合指数**で 100.5 となり、前年に比べ 0.3%上昇し、2 年連続の上昇となりました。

前年からの主な動きをみると、衣料の値上がりにより被服及び履物が、家賃の値上がりにより住居がそれぞれ上昇しました。一方、教養娯楽用耐久財の値下がりにより教養娯楽が、通信の値下がりにより交通・通信がそれぞれ下落しました。

なお、**生鮮食品を除く総合指数**は 100.3 となり、前年に比べ 0.2%上昇し、2 年連続の上昇となりました。

### 図1 名古屋市消費者物価指数の推移

平成17年=100



## 前年からの動き

- **食料**は 100.7 となり、前年に比べ 0.3%の上昇

生鮮魚介は 0.1%の上昇 <値上がり>えび、まぐろなど <値下がり>いかなど

生鮮野菜は 3.5%の下落 <値上がり>レタスなど <値下がり>にんじん、キャベツなど

生鮮果物は 8.4%の上昇 <値上がり>みかん、いちごなど <値下がり>メロンなど  
外食は 1.2%の上昇 <値上がり>すし(回転ずし)など

- **住居**は 101.6 となり、前年に比べ 0.5%の上昇  
家賃は 0.7%の上昇 <値上がり>民営家賃(非木造中住宅)など
- **光熱・水道**は 103.7 となり、前年に比べ 1.1%の上昇  
ガス代は 2.1%の上昇 <値上がり>都市ガス代など  
電気代は 1.1%の上昇 <値上がり>電気代
- **家具・家事用品**は 96.1 となり、前年に比べ 1.1%の下落  
家庭用耐久財は 6.0%の下落 <値下がり>ルームエアコンなど
- **被服及び履物**は 101.7 となり、前年に比べ 2.3%の上昇  
衣料は 4.2%の上昇 <値上がり>婦人ブレザーなど
- **交通・通信**は 99.8 となり、前年に比べ 0.4%の下落  
通信は 2.0%の下落 <値下がり>移動電話通信料  
自動車等関係費は 0.1%の上昇 <値上がり>ガソリンなど
- **教養娯楽**は 97.1 となり、前年に比べ 1.0%の下落  
教養娯楽用耐久財は 16.6%の下落 <値下がり>テレビ(薄型)、パソコン(ノート型)など  
教養娯楽サービスは 0.9%の上昇 <値上がり>外国パック旅行など
- **諸雑費**は 101.3 となり、前年に比べ 1.0%の上昇  
たばこは 4.3%の上昇 <値上がり>たばこ(国産品)など  
身の回り用品は 2.3%の上昇 <値上がり>ハンドバッグ(輸入品)など

表1 10大費目の前年比及び寄与度

		総合	生鮮食品を除く総合	食料	生鮮食品	住居	光熱・水道	家具・家事用品	被服及び履物	保健医療	交通・通信	教育	娯楽	雑費
前年比 (%)	18年	0.2	0.1	0.4	3.7	1.1	2.6	△ 2.8	△ 0.6	△ 0.6	0.2	1.1	△ 1.9	0.3
	19年	0.3	0.2	0.3	0.5	0.5	1.1	△ 1.1	2.3	0.9	△ 0.4	1.0	△ 1.0	1.0
寄与度	18年	0.20	0.10	0.11	0.16	0.21	0.17	△ 0.09	△ 0.03	△ 0.03	0.03	0.05	△ 0.21	0.02
	19年	0.30	0.19	0.08	0.02	0.09	0.07	△ 0.03	0.11	0.04	△ 0.05	0.04	△ 0.11	0.06

## 利用上の注意

### 1 年平均確報値について

この年平均確報値は、平成19年1月から12月の各月の指数値を用いて、総務省統計局が集計（財・サービス分類指数は除く）したものです。

### 2 指数について

1. 指数の基準時及びウエイトの算定期間は、平成17年の1年間です。
2. 指数の算式は、基準時加重相対法算式（ラスパイレス型）によります。
3. その他詳しくは総務省統計局公表資料をご覧ください。